第３章

丹波篠山市の歴史文化の特徴

・篠山盆地のなかにかつての城下町－街道集落－農村集落の相互関係が生き続け、それが絶えまなく変化する現代社会にあって本市特有の「日本の原風景」として継承されている。

・本市特有の「日本の原風景」は以下の４つの歴史文化の特徴から構成される。

１．山々に囲まれた地形が生み出す生活・生業の歴史文化

２．「みち」を通じて育まれた時代を象徴する歴史文化

３．都市と田園がつくりあげてきた風景の歴史文化

４．人々の絆を育み、村の安寧を守る民間信仰

・本市の 19 の各地区はそれぞれ特色ある歴史文化を継承しており、それぞれが重なり合って、本市の厚みのある歴史文化をつくりだしている。

３－１．丹波篠山市の歴史文化の特徴

本市は、京都の教王護国寺や大坂の住吉大社などの寺社や貴族により開墾された中世荘園を基盤として、近世には、「城下町」、「街道集落」、「農村集落」が有機的に関連しながら成立してきた都市である。「城下町」は天下普請により築城された篠山城の城下に領内の町場から商職人の移動や寺院の移転によって町が形成され、「街道集落」は農村を母体として京街道などの街道筋に交通・流通の要衝として発展し、「農村集落」は黒大豆や茶の栽培などの展開をみせながら農村としての性格を維持し続けてきた。

このように、近世におけるわが国の集落形態のうち３つの典型が有機的に関係しながら共存して、各集落が特徴的な景観を形成してきた。そして、明治維新以降の近代、戦後の高度経済成長期を通じて現代までの社会環境の大きな変化にもかかわらず、篠山盆地のなかに、かつての城下町－街道集落－農村集落の相互の関係が生き続け、それが絶えまなく変化する現代社会にあって本市特有の「日本の原風景」として継承されている。

本市には、古代からの歴史を感じさせる古墳や集落遺跡、大国寺本堂、長谷寺妙見堂、春日神社能舞台などの社寺建築や近代和風建築物、茅葺民家などの歴史的建造物、八上城跡や篠山城跡などの中世から近世にかけての城跡、地域で守り伝えられている仏像や石仏、日本六古窯の一つである丹波焼や登り窯などの数多くの「歴史資産」が残されている。それらの「歴史資産」は、広がりのある盆地のなかで全国的にも著名な黒大豆や山の芋などを産する農地、市域の７割を占める緑豊かな山林、オオサンショウウオやオヤニラミの生息する清流などの豊かな自然環境と一体となって丹波篠山固有の風景を形成している。さらに、歴史的な町並みや自然豊かな集落を舞台に、京都や播磨地方の影響を受けて発展した祭礼行事、年中行事、民間説話などの多くの無形の「歴史資産」が現在もなお受け継がれ、生活文化のなかで人々の心を育んでいる。

このように本市の歴史文化の特徴を一言でいうと、「日本の原風景」と表現できる。

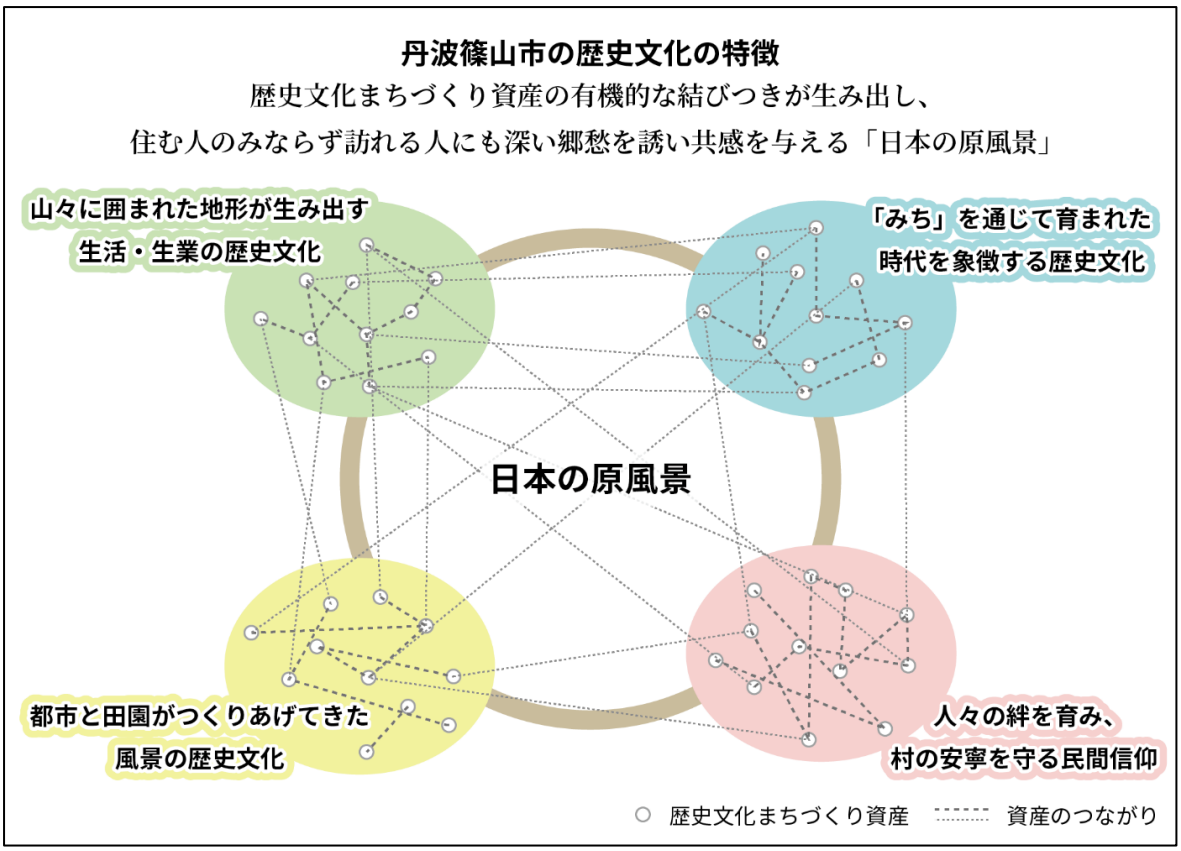

図 3-1　丹波篠山市の歴史文化の特徴

さらに、「日本の原風景」は以下の４つの歴史文化の特徴から構成される。

（１）生活・生業：山々に囲まれた地形が生み出す生活・生業の歴史文化

本市は多紀連山や深山山地などの急峻な山々に囲まれ、小さな丘の点在する独特の盆地地形をなしている。また、発見された化石等から本市の大部分は太古篠山湖であったといわれている。

霧が多く発生する気象や地形、クリンソウやアズマイチゲ等の様々な植物を育む土、澄んだ水などにより、古くから人が住み、農業・林業・畜産業・鉱業・温泉業・窯業・観光業など各時代において自然を活かした様々な生業が営まれ、各時代を通して中央に献上された様々な農産物や工芸品がいまも特産品として人気を博しているなど、現代においても豊かな食文化や暮らしの文化を継承している。

また厳しくも豊かな自然は、山岳修験道や軍隊演習地など人々を試す場でありつつも、いつの時代も人々の心を癒し、生活・生業の歴史文化として引き継がれている。

（２）みち：「みち」を通じて育まれた時代を象徴する歴史文化

本市は古来、交通の要衝となっていた。古代には、古代山陰道の駅家跡が残り、渡来人や他地域との交流の「しるし」の残る遺跡が点在している。中世には、源平合戦（三草山の戦い）にまつわる伝説の残る地名や和泉式部にまつわる伝説、寺院や考古資料等の「歴史資産」が残されている。

また、中世から近世にかけて京街道を通じた京都や摂津等との交流の中で影響を受け、魅力的な町並みや人々の生活にかかわる伝統行事、デカンショ節などの民俗文化が生まれている。さらに、俳人西尾武陵に代表されるように多くの文化人も近世の街道を通じて交流していた。

近代には、鉱業を支えた国鉄篠山線、軍隊設置にあわせて敷設された軽便鉄道、舟運のための人工河川である田松川、柏原との交通を飛躍的に向上させた３つの鐘ヶ坂トンネルなどがつくられ、それぞれの時代を象徴する文化を育み続けている。

（３）風景：都市と田園がつくりあげてきた風景の歴史文化

本市は、都市的機能と農村的機能を兼ね備えた田園文化都市であるといえる。古代の地方豪族は雲部車塚古墳に代表されるような古墳を今も市内各地に残し、中世の有力者は農地の基礎をつくり条里景観を現代に残している。また、戦国期の山城は 50 か所以上残り、中世から近世にかけての群雄割拠の様子を伝えている。篠山藩政時代には、篠山城を中心として城下町が形成され行政・教育・経済の基盤がつくられ、近世都市として発展した都市形態を感じさせる。

さらに日露戦争後に歩兵第 70 連隊の兵舎が新設され、第二次世界大戦後には、跡地に県立医大予科や県立兵庫農科大学が立地するなど、熱心な教育の文化を示している。このように、都市と田園の営みがつくりあげてきた風景が本市の歴史文化を特徴づけている。

（４）信仰：人々の絆を育み、村の安寧を守る民間信仰

各地区、各集落には大小さまざまな民間信仰が根付いている。古いものでは 900 年近い歴史を持つ祭礼や伝統芸能が残り、当時の人々の願いを今に伝えている。また、各地区の祭礼や行事を通して、ともに願い祝うことで地域住民は絆を育み、自治の精神の強い地域を作り上げてきた。

祭礼の際に供えられる食物の中には入手が困難になっている材料も多いものの、現在でも地域住民を中心に継承されている。また、中世山岳仏教や近世の切支丹信仰は全国でも特に熱心だったとされ、それらにまつわる彫像や寺院跡などもその姿をとどめ、今も地域の歴史文化の核となっている。

以上のように、本市の歴史文化は４つの特徴から成り立っているが、19 地区それぞれの特色ある歴史文化の中にも４つの特徴が息づいている（３－２で詳述）。下図は各地区の歴史文化の特徴と市の歴史文化の特徴の関係性を表している。各地区の多様な歴史文化が重なり合って、本市の厚みのある歴史文化をつくりだしている。

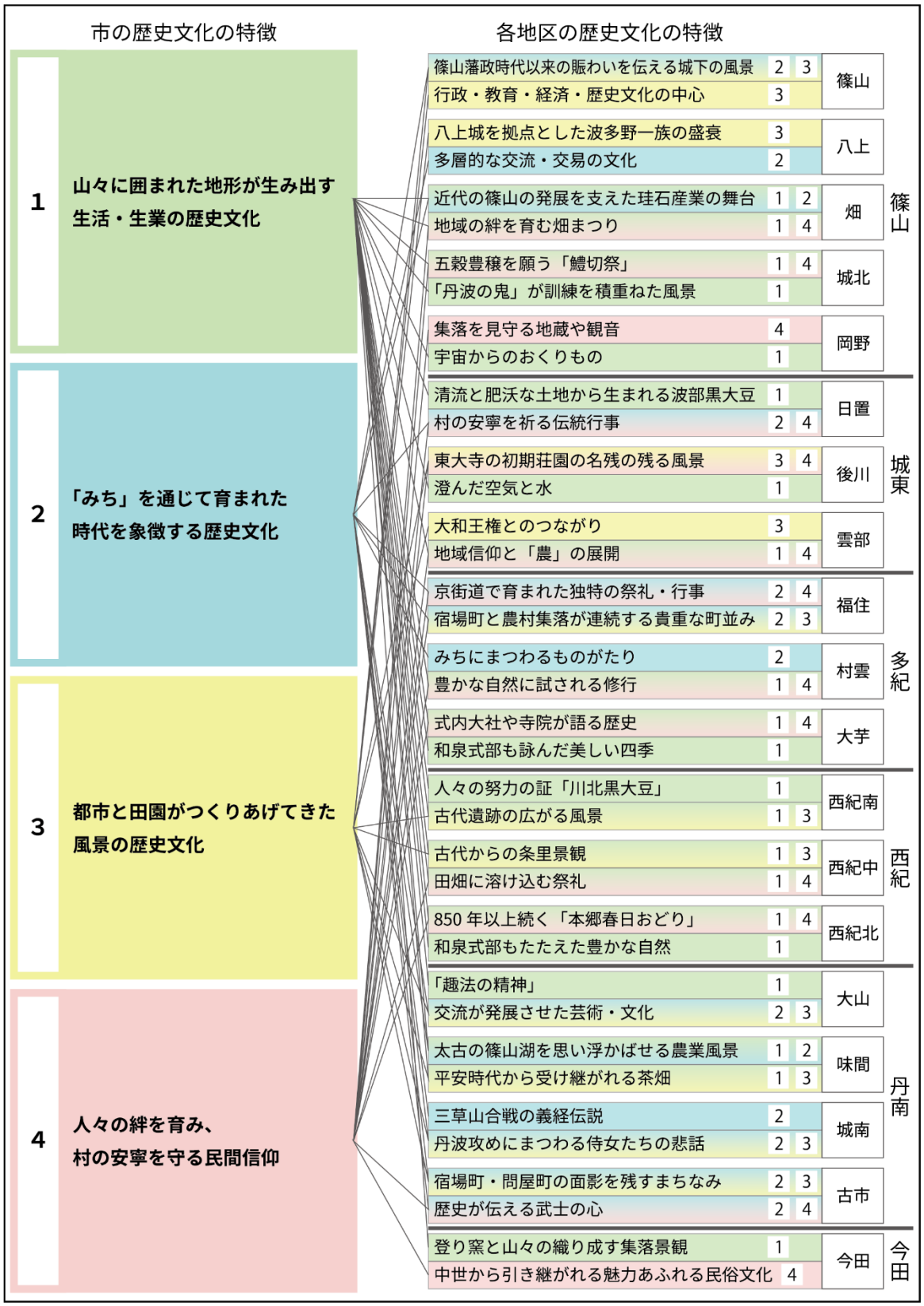

図 3-2　丹波篠山市の歴史文化の特徴

３－２．各地区の歴史文化の特徴

市内 19 各地区はそれぞれに個性ある歴史文化を継承している。それは城下町、街道集落、農村集落という空間の成り立ちとそこで営まれる人々の暮らしとが相まって形成されてきたものであり、３－１で述べたとおり、互いに重なり合って、本市の厚みのある歴史文化をつくりだしている。

各地区の歴史文化の特徴は以下のとおりである。

なお、大きく下記の３点に留意して各地区の歴史文化の特徴を整理した。

①町史等から収集した歴史的背景

②歴文構想策定時及び地域計画策定時の文化財総合把握調査により把握した「歴史資産」の分布

③各地区におけるまちづくり協議会や自治会、民間団体等における現在の取組内容

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（1/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
01 篠山	篠山城築城以前は黒岡村と呼ばれる農村地帯で１千石を有する豊かな村であった。山陰道の要衝として、西国諸大名をおさえるため徳川家康の命により慶長 14 年(1609)に篠山城が築かれた。篠山城は、松平三家八代青山家六代の居城として栄えたが、明治維新後、多くの武家が篠山を去り、篠山城周縁の武家町が衰退した。その後、役所や中学校、裁判所などの都市機能が加わり、多紀郡・丹波篠山市の行政、教育、経済の中心として機能し続けてきた。		
	みち 風景	１）篠山藩政時代以来の賑わいを伝える城下の風景 篠山城を中心として武家町・商家町が広がる城下町形成期の町割りが受け継がれており、また、教育を重んじた篠山藩主の思いが、藩校跡や資料などを通して伝えられている。春日神社祭礼は、城下の賑わいを伝える生きた文化財として継承されている。	＊誓願寺　・王地山稲荷社　★小田垣商店 ★鳳鳴酒造　＊西坂家住宅　☆小林家長屋門 ＊大学衍義補版木他　＊丹波篠山藩古文書 ＊春日神社祭礼(黒岡)　・青山神社祭礼 ・王地山焼陶芸技法　★篠山城跡 ・藩校振徳堂跡　★篠山伝建地区
	風景	２）行政・教育・経済・歴史文化の中心 行政・教育・経済の中心地として機能し続けた当地区には多くの近代化遺産（裁判所・役所・銀行など）が残されている。それらの文化財の多くが現在、資料館や観光拠点などとして利用されており、篠山地区は本市における歴史文化の中心となっている。	＊旧篠山地方裁判所　・旧篠山町役場庁舎 ・桂園舎(青山歴史村)　・デカンショ祭り ・旧安間家住宅（武家屋敷安間家史料館） ・丹波杜氏
02 八上	八上の山麓には古墳が分布して、約 1,500 年前から生活が営まれてきたと考えられ、古代山陰道が往還していた可能性もある。中世には、丹波国多紀郡の中心地となり、応仁の乱の戦功によって多紀郡小守護代に任ぜられた波多野清秀により、八上城が築城された。その後、波多野氏は細川氏の有力内衆として勢力を拡張していったが、天正６年（1578）の明智光秀による丹波攻めにより落城し滅亡した。のちに松平康重が入城したが、篠山城の築城により八上城は廃城となり、それ以降は京と篠山を結ぶ街道集落として発展した。		
	風景	１）八上城を拠点とした波多野一族の盛衰 波多野一族が拠点とした八上城跡を中心にいくつもの支城が残る。地区内には、波多野氏の勅願所や、波多野氏の興亡史をまとめた籾井家日記、丹波攻めにまつわる伝説の仏像などが残る。	・善導寺　☆銅造蔵王権現立像 ＊王地山焼蓋物　＊奥谷水帳写し ＊籾井家日記　・八上城物語 ★八上城跡　・小谷城跡　・蕪丸城跡
	みち	２）多層的な交流・交易の文化 古代の山陰道、江戸期の京街道、明治時代の舟運業を支える田松川、戦中整備された国鉄篠山線、平成に入り整備された日置バイパスなど各時代における交流・交易の文化が多層的に存在する。	・田松川　・八上の一里塚、松 ＊重兵衛茶屋 ・国鉄篠山線廃線跡　・八上地区

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（2/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
03 畑	南北朝期に畑能道が八百里城を築城し、代々畑氏の居城であった。しかし、天正７年（1579）の明智光秀による丹波攻めにより八百里城は落城し、その後、太閤蔵入地となったのち八上藩領、篠山藩領となる。近代には丹波珪石鉱山として開山し朝鮮半島からの労働者を含む多くの労働者が居住し、大いににぎわった。		
	生活生業 みち	１）近代の篠山の発展を支えた珪石産業の舞台 大正 9 年（1920）に火打岩で珪石が発見されて以来、昭和 54 年（1979）の閉山まで、日鉄鉱業畑鉱山を中心に多くの珪石が産出された。戦中戦後には国内生産の 70%の珪石を生産したといわれる。珪石の産出に併せ鉄道が敷設され、鉱業は近代の篠山の発展を支えた大きな要素の一つとなった。	・珪石産業　・鉱山　・トロッコレール跡
	生活生業 信仰	２）地域に絆を育む畑まつり 山車 10 基が豪快に宮入りする 400 年以上続く「畑まつり（佐々婆神社祭礼）」をはじめとして、中世山岳修験道やマリア観音が伝える切支丹信仰など地区には様々な信仰が根付いている。また、修験道で栄えた大岳寺付近のあるクリンソウは、5～600 年前に薬草として栽培されていたのではないかとも考えられている。	・長徳寺　・金照寺　・佐々婆神社 ＊十六善神画像　＊マリア観音立像 ・佐々婆神社祭礼　＊大岳寺(みたけじ)跡 ＊水飲場　＊福泉寺跡　・三嶽修験道 ・クリンソウ
04 城北	中世荘園の「安行荘」（新荘・野間）、「日置荘」（沢田、黒岡、郡家）、「三箇北荘」（大熊、寺内、佐倉、大谷、鷲尾、知足、熊谷、藤岡）から成り立つ地区である。篠山城築城によって、城の北部に位置することから、以降当地は「城北」と呼ばれるようになった。多紀連山の豊富な水と肥沃な土壌により古くから農業が営まれており、現代でも山の芋などの特産物の栽培に力が入れられ、農業にまつわる伝統行事が引き継がれている。		
	生活生業 信仰	１）五穀豊穣を願う「鱧切祭」 多紀連山の豊富な水と肥沃な大地により古くから農業が営まれ、現在も、米・山の芋・黒大豆などの特産品を生産に力を入れている。地区内の各集落では、五穀豊穣や村内安全を祈願する祭礼・行事が引き継がれ、特に沢田八幡神社の「鱧切祭」は奇祭として知られている。	★春日神社　・沢田八幡神社 ＊木造毘沙門天立像　・農業　＊鱧切祭 ＊春日神社祭礼（黒岡）　・春日能
	生活生業	２）「丹波の鬼」が訓練を積重ねた風景 明治 41 年（1908）に現在の郡家周辺に歩兵第 70 連隊が設置された。裏山の「盃ヶ岳」を演習場代わりにした苛烈な訓練で、「丹波の鬼」と称された。また、篠山の代表的な郷土料理であり、牡丹の花びらを模した盛り付けの「ぼたん鍋」は彼らが訓練と称して捕まえたイノシシを食べたことが発祥とされている。篠山産業高校の裏手にはレンガ造りの旧兵舎が現存している。	・北向き地蔵　＊軍旗 ・平和祈念祭　・盃ヶ岳 ・歩兵第七十連隊跡 ・ぼたん鍋
05 岡野	岡野地区には、古代の遺跡が数多く点在しており、古くからこの地で人々が生活を営んでいたことがうかがえる。また、地区の中心部は古代に郡衙が置かれた場所であると推定されており、西浜谷には古代山陰道の駅家、長柄駅があったと推定されている。近世には、篠山城下町の西側に位置することから、藩主により菩薩寺や護摩堂等が建立されている。戦後、工場誘致により市街化が進み農地の一部は住宅地となった。		
	信仰	１）集落を見守る地蔵や観音 地区内のあちこちに地蔵菩薩や小祠があり、住民により日々守られている。岡野のシンボルともなっている権現山には、諏訪神社があり安産の神として信仰を集めている。また、講で供される大根なます等の伝統料理も地区住民により継承されている。	＊長源寺大師堂　・蟠竜庵 ＊親鸞聖人御絵伝　・農業 ・諏訪神社祭礼　・諏訪神社 ・村祈祷　・お日待ち　・大根なます
	生活生業	２）宇宙からのおくりもの 明治 37 年（1904）、岡野地区今福の山林に隕鉄が落下した。この隕鉄は、目撃者、落下した日時が確認されていること、鉄分が多くニッケルが少ないということから貴重であるとされ、現在は京都大学に保存されている。岡野隕鉄は地域の宝となっており、レプリカが岡野小学校に設置されている。	・岡野隕鉄　・隕石落下地

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（3/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
06 日置	平安時代に書かれた和名類聚抄に、丹波の郷「日置」（へき）の記述があり、旧多紀郡の国造的豪族に「多紀臣」や「日置臣」の名前が見られることから、古くから「日置」の名称が存在していたことがわかる。近世には、八上城を拠点に波多野氏の領地として栄え、篠山城に居城が移転してからは街道集落・農村集落として発展してきた。		
	生活生業	１）清流と肥沃な土地から生まれる波部黒大豆 当地で採れる農作物には、弥十郎ケ嶽から流れる辻川や曽地川が篠山川によりミネラル分を多く含んだ地下水が豊富に蓄えられる。特に、「波部黒大豆」は日置地区の豪農大庄屋波部六兵衛らによって優良な黒大豆の種が作られ「波部黒」と名付けられたもので、近世には江戸へ献上されていた。	・農業（波部黒大豆等）　・曽地川 ・弥十郎ヶ嶽
	みち 信仰	２）村の安寧を祈る伝統行事 日置地区には、「丹波の祇園さん」として親しまれている波々伯部神社を舞台におやま行事や神事が毎年執り行われ、8 台の山車が練り歩く様子は大迫力である。こうした大掛かりな祭礼のみならず、さなぶりやとんど、数珠繰り、万灯会、講等がそれぞれの集落で引き継がれている。	＊波々伯部神社　・磯宮八幡神社　・阿弥陀寺 ★木造多聞天立像　★木造持国天立像 ☆波々伯部神社の祭礼操り人形 ★波々伯部神社のおやま行事、神事 ★日置のハダカガヤ
07 後川	後川地区は、深い山々に囲まれた辺境の地であった。奈良時代には、東大寺の荘園となり一時藤原氏領となったことも知られている。地区内の春日神社には藤原氏の氏神が大切に祀られている。現在は農業を主産業とし、茶・山椒・栗等が特産品として知られている。		
	風景 信仰	１）東大寺の初期荘園の名残の残る風景 現在の後川地区にあたる「後河荘」は天平 20 年（748）に聖武天皇によって東大寺に寄進されたとされている。一時は藤原氏領となり地区内には藤原氏の氏神を祀る上春日神社･中春日神社がそれぞれ大切に守られてきている。	・春日神社　・春日神社祭礼　・田園風景
	生活生業	２）澄んだ空気と水 当地区は、羽束側に国指定天然記念物のオオサンショウウオが生息し、澄んだ空気を活かして農業が営まれるなど自然豊かな場所である。また篭坊温泉は約 800 年の歴史を持ち、平安末期には一の谷の合戦に敗れた平家の落ち武者が刀傷を治したと伝わり、明治時代には有馬と並んで繁栄した湯場である。	・後川稲荷神社　・清陰寺　・篭坊温泉 ・農業（茶など）　・篭坊温泉　・羽束川 ★オオサンショウウオ　・トチノキ
08 雲部	雲部地区には、県下第２位の規模を誇る前方後円墳「雲部車塚古墳」が位置し、また「県守」の地名が残っていることから古代地方政庁の設置との関係がうかがえる。雲部の地名は、平安時代に荘園であった東隣の「村雲庄」の「雲」と西隣の「曽我部庄」の「部」をとって「雲部」と名づけられたと伝えられている。近世には豊臣氏の蔵入地となり、その後八上藩領、篠山藩領となった。		
	風景	１）ヤマト王権とのつながり 当地区の山裾には古墳が数多く存在している。特に、「雲部車塚古墳」は古墳時代中期前半に築造された、大規模な前方後円墳であり、古代の丹波地域の政治的体制及びヤマト王権との関係を探る上で欠くことのできない古墳である。	★雲部車塚古墳　・「県守」の地名
	生活生業 信仰	２）地域信仰と「農」の展開 古くから地区内の主要な産業は農業であり、近年は閉校になった小学校を活用した直売所やレストランの運営に力が入れられている。また、地区内の各集落にはそれぞれ古い社寺が残っており、祭礼や村祈祷、愛宕講等が引き継がれ農業にまつわる地域信仰がよく根付いている。	・熊按神社　・八幡神社　・珪石　・農業 ・熊按神社祭礼　・八幡神社祭礼 ・三ツ池　・衣笠山　・篠山川

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（4/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
09 福住	平安時代「小野荘」と号され、古代山陰道に「小野駅」が置かれるなど古くから交通の要衝として開けた場所であった。室町時代には、福住一帯が仁木氏の支配下にあった。戦国時代になると、波多野氏の被官であった籾井氏の居城・籾井城、安口城、安口西砦などが築かれた。天正６年（1578）の明智光秀による丹波攻めにより、丹波衆が勢力を失い天下普請で篠山城が築かれた後は、京街道が整備され、京・大坂との交通の要衝として宿場町として発展した。明治維新にともない宿駅の制度は廃止されたが、明治時代中期頃までは交通量の増加により宿場町として繁栄を続けた。しかしその後、京都鉄道、阪鶴鉄道が開通したことにより、大きな打撃を受け、旅客を対象とする旅籠や商店は徐々に廃業し、農業を中心とした農村集落としての性格を強めていくこととなった。		
	みち 信仰	１）京街道で育まれた独特の祭礼・行事 住吉神社の水無月祭は、曳山の形状や巡行時の囃子から京都の祇園祭を彷彿させ、打込囃子は大阪の文楽からの影響が想定されるなど、京、大坂との交通の要衝であったこの地の地理的、文化的環境をうかがわせるものである。また、熊野新宮神社の八朔祭でも京文化の系統を継ぐ山車が練り歩く。	・住吉神社　・熊野新宮神社 ＊住吉神社鐘楼　＊八朔祭の造り山 ＊本明谷鳳凰山の見送り　・キツネガエリ ＊水無月祭の祭礼と打込囃子
	みち 風景	２）宿場町と農村集落が連続する貴重な町並み 福住地区は、歴史的な町並みとともに田園景観、地域内に点在する景観の核となる社寺、河川、周辺の山と山麓の集落などが一体となった景観を残しており、宿場町と農村集落の異なる歴史的景観が街道に沿って連続する、全国的にも非常に貴重な町並みが形成されている。	・藩境石柱　・幡路の地名由来　・農業 ★福住伝建地区　・福住の一里塚、松 ・小野駅跡
10 村雲	村雲地区は交通の要衝であり、農耕地に恵まれた為、古くから生活が営まれたことを示す遺跡が残る。高い山々に囲まれ集落が存在しており、中世には山岳修験道が栄えた。近世には豊臣氏の蔵入地となり、その後八上藩領、篠山藩領となった。		
	みち	１）みちにまつわるものがたり 中世の那須与一伝説の残る寺院、近世の交通の要衝であった馬渡橋や旧道沿いの札場、近世に珪石を運び出した国鉄篠山線の村雲駅跡等、各時代のみちにまつわる物語を象徴する「歴史資産」が残っている。	・那須与一大権現　・馬渡橋 ・旧国鉄村雲駅跡の記念碑　・珪石 ・札場　・向井の港
	生活生業 信仰	２）豊かな自然に試される修行 急峻な山々を舞台とした山岳修験道や、筱見四十八滝を舞台とする行者修行、五穀豊穣を願う左近神社祭礼や那須与一祭など自然を背景とした様々な信仰が生まれ、その痕跡が各地に残っている。	・左近神社　・九頭女神社　・八幡神社 ☆木造薬師如来坐像　・左近神社祭礼 ・不動岩　・にしぼん山
11 大芋	大芋地区は市内で唯一延喜式に記された式内大社の櫛石窓神社や市内最古の建造物妙見堂がある地域であり、市内でも早い時期に集落が確立していたと考えられている。南北朝期から戦国期にかけていくつかの荘園に分かれており、近世には大芋一族の支配下であった。近代には一時珪石産業でにぎったが、現在は農業が主産業である。		
	生活生業 信仰	１）式内大社や寺院が語る歴史 大芋中一ノ宮遺跡や大芋中堀の宮遺跡、藤坂遺跡等多くの古代～中世にかけての集落跡などが発掘されている。また、大芋地区は市内で唯一延喜式に記された式内大社の櫛石窓神社や市内最古の建造物妙見堂がある地域であり、市内でも早い時期に集落が確立していたと考えられている。	★長谷寺妙見堂　・櫛石窓神社 ☆木造大日如来坐像 ＊木造大宮比売命坐像
	生活生業	２）和泉式部も詠んだ美しい四季 藤坂川・大芋川・奥山川の水は清くゲンジボタルが生息し、ひつじが嶽・雨石山・毘沙門山などの山々には四季折々の花が咲く。このような風景を和泉式部は「心ある　人は来てみよ　大くもなる　藤坂山の花のさかりを」と歌にした。	・和泉式部歌碑　・農業　・ひつじが嶽 ・藤坂春日神社祭礼、お田植え神事 ・毘沙門の滝　・雨石連山　・大芋川

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（5/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
12 西紀南	少将山遺跡や黒田遺跡、口阪本遺跡等古代の遺跡が広がり、くらしの起源は約 2000 年前にさかのぼる。篠山川・宮田川沿いには条里景観が広がりかつての人々の生活を想像できる。戦後、地域振興施策・産業育成として製造関係企業の誘致が図られ、のどかな田園景観の中に中規模の工場が点在している。		
	生活生業	１）人々の努力の証「川北黒大豆」 民話「不思議な黒豆」で語られるように、川北黒大豆の産地とされる川北は水のない村であった。しかし、人々の努力と信仰により栄養価が高く味の良い川北黒大豆を生み出した。江戸時代には篠山城主から毎年将軍家に納められ、現代では本市を代表する特産品の一つとなっている。	・大円寺（みろく堂）　・各神社祭礼 ・不思議な黒豆　・川北黒大豆
	生活生業 風景	２）古代遺跡の広がる風景 当地区には丹波少将成経または千種少将顕経の館跡があったとされる黒田少将山遺跡や黒田遺跡、口阪本遺跡等弥生時代の遺跡が残されている。また、篠山川・宮田川沿いには、かつての人々の生活を想像させる中世の条里景観のなごりが見られる。	・少将山遺跡　・黒田遺跡　・篠山川 ・宮田川
13 西紀中	当地区は、古代山陰道跡の有力な候補地の一つであり、古くから交通の要衝として重視され、数多くの遺跡が残る。古代末から中世にかけては、近衛家（京都）の宮田荘を中心に栗柄の葛川明王院（近江）領等の荘園が設けられた。近世はもと前田氏領で、のちに篠山藩領となった。		
	生活生業 風景	１）古代からの条里景観 ２万年前の集落跡である板井・寺ヶ谷遺跡をはじめとして小坂・宮田周辺には数多くの遺跡が広がる。また、宮田川沿いには農地が広がり、古代条里の水田景観のなごりが現代に継承されている。	・宮田古墳群　・四王寺古墳群 ・条里地形　・宮田川　・小坂川 ・阿弥陀渕　・栗柄峠 ・栗柄谷中分水界
	生活生業 信仰	２）田畑に溶け込む祭礼 当地区は水に恵まれた土地であり古代の化石が発掘されているとともに、豊かな自然が残る。近代には畜産・養蚕・林業等で栄えていたが、現在は農業が主体である。山の芋や黒豆・米など特産品の生産に力が入れられており、五穀豊穣を祈る様々な祭礼・行事もまた農の風景の一部となっている。	・川内多々奴比神社　・天満神社 ・川内多々奴比神社(一の宮)祭礼 ・とろろ街道　炎のまつり　・農業 ・栗柄ダム　・五坊谷池　・里山
14 西紀北	川阪・遠方・本郷・桑原の 4 つの集落からなる地区で、荘園「草山荘」として中世からの歴史をもち、由良川支流となる友渕川流域として地勢的にまとまりがある。近世はもと前田氏領で、のちに篠山藩領となった。		
	生活生業 信仰	１）850 年以上続く「本郷春日おどり」 西紀北地区は自然豊かな地区で古くから炭焼きや農業を生業としてきた。また、寛永年間からの歴史を持つ塩類霊泉として知られている草山温泉が現在でも営業を続けている。五穀豊穣を願う春日神社の秋の大祭では 850 年以上続く伝統芸能「本郷春日おどり」が奉納される。	★春日神社本殿　・炭焼　・農業 ＊本郷春日おどり　・鯨と温泉 ・草山温泉
	生活生業	２）和泉式部もたたえた豊かな自然 多紀連山から流れる水は清く、ホタルなどの動物、シャクナゲや桜といったように豊かな自然が広がっている。和泉式部が桑原の人に親切にしてもらった御礼に桑の木を植樹し、その後桑原村は潤ったという伝説も残っている。	・和泉式部の供養塔　・和泉式部と桑原 ・樫の大木　・シャクナゲ

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（6/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
15 大山	大山地区の歴史は古く、全域から弥生時代の遺跡や古墳が発見されている。平安時代から鎌倉・室町時代をへて戦国時代に至るまでは東寺領の荘園として発展し、今でもため池や谷部に当時の様子を見て取ることができる。江戸期に入ると篠山藩の支配を受け、大山組として組内 16 か村の結びつきを強めた。明治 4 年（1871）の廃藩置県により豊岡県にさらに明治 9 年（1876）には兵庫県に編入され、明治 22 年（1889）の町村制の施行により旧大山組諸村を大字として大山村が成立した。		
	生活生業	１）「趣法の精神」 神田神社を総社として地区内には大小多くの神社があり、地区住民は同じ氏子として古くから強い結びつきがあった。藩政時代、貧困者が多くなると、大山地区では、苦境を乗り切るために共同林を設け、後年、そこから得られたお金で、学校や橋をつくり貧しい人を助けた。この山は趣法山と呼ばれ今日まで受け継がれている。戦後は、「山よ緑よふるさとよ」のスローガンのもと先祖から預かった山々を守りつづけている。	・神田神社　・農業　・林業　・川代渓谷 ★追手神社のモミ　＊アズマイチゲ(群落) ・川沿いの早咲きのオカメザクラ
	みち 風景	２）交流が発展させた芸術・文化 大山地区には道を通じて各時代の特色ある歴史文化が形成されている。例えば、古代、渡来系の工人がつくったとされる作品の残る峠尻 2 号墳や、明智光秀が丹波攻めの拠点とした金山とそれにまつわる史料、他文化を取り入れた人形狂言、俳人西尾武陵が友人と遊んだとされる鐘ヶ坂峠などがある。	★西尾家住宅　・高蔵寺　・３時代のトンネル　☆釈迦八相涅槃図　＊荒田家文書 ＊大山出土遺物コレクション ＊人形狂言 ☆池尻神社操り人形の首　＊三子塚古墳 ＊金山城跡　・追入地区
16 味間	味間地区は太古の篠山湖の中にあり、長らく水郷の様相を呈していたといわれている。中世は酒井一族や波多野一族の支配下に置かれ、味間地区には当時城館 9 箇所があったことが記録に残されている。近代から現代にかけて、国鉄福知山線（旧阪鶴鉄道、現ＪＲ福知山線）、国道 176 号、若狭舞鶴自動車道の交通施設が順次整備され、農村地域としての優れた居住環境が確保されながら、利便性に恵まれた地域となっている。		
	生活生業 みち	１）太古の篠山湖を思い浮かばせる農業風景 「味間」の地名は水郷に生い茂る「芦の間」を起源とする説等がある。「火ともし山」は湖沼を往来する舟運の安全航行の目印になっていた。江戸初期のころには約 30ha が水郷状態であったといわれる。こうした地形を活用して明治期に水路を開削して阪神間までの物資輸送の舟運が開設され、その後は農業用水路として活用されている。当地での農作業の労働生産性は低く、近年に至るまで何度も大規模な土地改良事業が行われてきた。	・大沢新・牛ヶ瀬（田松川）の谷中分水界 ・火灯し山　・化石 ・吹土地改良区揚水所 ・耕地整理事業記念碑
	生活生業 風景	２）平安時代から受け継がれる茶畑 丹波茶は兵庫県の代表的産物の一つであり、平安時代には朝廷に献上され、江戸時代には上方での消費の半分をまかなっていたとされる。「丹波霧」の発生する気候、水はけのよい土壌により味わい深い茶がつくられる。現在も、祖先の技法とその伝統を受け継がれ、また初夏には新茶に感謝する祭りが大国寺で開かれる。	★大国寺本堂　・製茶業(丹波茶) ★木造阿弥陀如来坐像

表 3-1　各地区の成り立ちと歴史文化の特徴（7/7）

地区	地区の成り立ち		
	関連する市の歴史文化の特徴	歴史文化の特徴	関連する主な文化財 （下線部は日本遺産構成文化財） （★国指定等、☆県指定等、＊市指定等）
17 城南	城南地区には、平安期以降、東寺領大山荘をはじめとして多くの荘園がおかれた。戦国期には波多野氏の支配下となったが、明智光秀の丹波攻めにより滅ぼされた。近世は、豊臣氏蔵入地となったのち、八上藩領、篠山藩領となる。		
	みち	1）三草山合戦の義経伝説 平安末期、京都から三草山の戦いへ向かう源氏の一行が当地を通ったとされており、小枕春日神社・龍蔵寺・弘誓寺・馬口池・しんど池など、義経伝説にまつわる文化財が点在している。	・春日神社　・龍蔵寺　・弘誓寺　・しんど池 ・源義経の道　・薬師池　・馬口池
	みち 風景	2）丹波攻めにまつわる侍女たちの悲話 乙女塚･女縄手の碑など、地区北部には明智光秀の丹波攻めに際し、波多野秀治の腰元・侍女たちの悲話を今に伝える伝承が残っている。また、八上藩廃藩後篠山城築城にあたって石垣の石材が切り出された石切り場が残っている。	・女縄手の碑　・乙女塚　・谷山城跡 ・岩崎城跡　・真南条上城跡 ・栗栖野城跡　・５ヵ所の丁場
18 古市	多くの古代遺跡が散在しており、４世紀ごろには集落が形成されていたと考えられる。鎌倉時代から安土桃山時代に至っては酒井氏が古市村全域を統治していたといわれ、地区内には５つの山城がある。江戸時代に篠山藩領となってからは宿場町・問屋町として藩の経済の中心となった。明治に入ると古市尋常小学校や高等科が設置され、他村・他郡からの入学者も多く、教育に熱心な地域であった。また、阪鶴鉄道（現 JR 福知山線）が明治 32 年（1899）に開通し、銀行や飲食店も多く立地し、賑やかさはピークを迎えた。しかしその後、大型店の出現などにより商店街も急速に衰退し、以降は農村集落として現在に至っている。		
	みち 風景	1）宿場町・問屋町の面影を残すまちなみ 篠山藩政時代、古市は宿場町・問屋町として藩の経済の中心となり、酒造家がいくつもでき旅籠も軒を連ね篠山藩随一のにぎやかな町となった。また、古市集落の現存する社寺のほとんどがこの頃にできた。阪鶴鉄道が明治 32 年（1899）に開通すると、銀行や飲食店も多く立地しにぎわった。当時の町並みが今も残っている。	・蛭子神社 ★上田家住宅主屋　・常夜灯 ・旧料亭吾妻屋　・旧今田銀行　・狩場酒蔵 ・油井学校跡碑　・丹波古市焼 ・古市地区　・大歳神社の馬場揃え ＊篠山城築城の集石場
	みち 信仰	2）歴史が伝える武士の心 古市地区にはいくつかの武士にまつわる伝説が残っている。宗玄寺は赤穂浪士「不破数右衛門」ゆかりの寺であり、赤穂浪士の討ち入りの日を記念して義士祭が毎年行われ、子ども義士行列が集落を練り歩く。また、不来坂や大石峠には三草山合戦の義経伝説が残る。	・宗玄寺　・義士祭　・大石峠 ・不来坂の地名　・不来坂のななしの木
19 今田	今田の土地は古く、平安時代の天喜３年（1055）の東大寺文書に、「多紀郡西県守住吉御領小野原御荘」と、小野原の名が見られる。小野原荘の荘域は、現在の今田町全域であり、小野原、立杭、市原、木津、黒石の各集落には、村々の産土神として、住吉神社が祀られている。中世には「小野原庄」、江戸時代には「今田組」と改称し、現代につながる。		
	生活生業	1）登り窯と山々の織り成す集落景観 日本六古窯の一つに数えられる丹波焼が現在も生業として引き継がれている。丹波焼の発祥は平安時代の終わりから鎌倉時代の初めといわれている。桃山時代末期までの 400 年間は穴窯が使用されていたが、江戸時代初期以降は現在も使われている朝鮮式半地上の登窯が用いられている。	・陶器神社　☆古丹波壺　＊立杭焼狛犬 ★丹波立杭窯(作窯技法)　☆丹波立杭登窯 ・上立杭のお不動さん ☆上立杭の大アベマキ　・立杭地区
	信仰	2）中世から引き継がれる魅力あふれる民俗文化 小野原荘の総社とされている住吉神社は、摂津の住吉大社から勧請されたと伝えられている古い神社である。毎年行われる田楽「蛙踊り」は市内の三大奇祭の一つで、中世から伝えられた貴重な郷土の伝統芸能である。またその他にも、オトウや奉納相撲など各集落で様々な民俗文化が引き継がれている。	・住吉神社　・金毘羅神社 ☆木津住吉神社の田楽(田楽踊り) ☆住吉神社の神舞(蛙踊り) ・木津のオトウ ・上小野原住吉神社の社叢